

特定非営利活動法人 **バングラデシュと手をつなぐ会**

ミロン

No.116
December
2008



福岡に比べればずいぶん暖かいけれど
バングラデシュも今は冬

特定非営利活動法人 **バングラデシュと手をつなぐ会**
福岡市早良区西新5-4-20
TEL&FAX: 092-844-1369
ホームページ: <http://bangla.nngo.jp>

※「ミロン」は一つになる、手をつなぐという意味のベンガル語です。

特定非営利活動法人 **バングラデシュと手をつなぐ会**

バングラデシュ西部のメヘルプール県・カラムディ村やその周辺地域で
 現地の村人による開発のための委員会「ションダニ・シオンスタ」と協力して
 《教育》 《保健医療》 《生活向上》 の分野で協力活動を行っています。

現地での活動

バングラデシュと手をつなぐ会では、現地NGO「ションダニ・シオンスタ」に毎年活動資金を提供。
 相互のパートナーシップのもとに現地活動を支援しています。

*現地で「ションダニ・シオンスタ」は、主に次のような活動をしています。

教育

- ① ジャパニ小学校の建設とその後の運営支援～“みんなのための教育”を！
- ② 貧しくて学校へ行けない子どものために奨学金制度の実施
- ③ 就学に必要な費用を得るための支援として仔牛の奨学金プロジェクトの実施
- ④ ションダニ・スクール（小・中・高校）の建設・運営～“質のよい教育”を！

保健医療

- ① 妊婦健診や出産、産後のフォローや一般診療を行う母子保健センターの建設・運営
- ② カラムディ村の近隣の村々にソーシャルワーカーが赴き巡回健診
- ③ カラムディ村から遠い村にも拠点を置き定期的に出張診療（サテライト・クリニック）
- ④ 医療設備の充実、緊急患者対応のための救急車の配備

生活向上

- ① 生活に必要な収入が得られるよう支援する肉牛貸し出しプロジェクト
- ② 村の女性を対象に、足踏みミシンの職業訓練

国内での活動

これら現地の活動は、関心を寄せてくださる多くの方々のご理解とご協力に支えられています。
 そのような支援の輪をより広げるため、国内では次のような活動を行っています。

- ① 総会（毎年5月）、理事会（毎月2回）、事務局による活動方針の決定や運営
- ② 会報誌『ミロン』を年4回発行
- ③ 現地訪問やスタディツアーの開催と、その報告会開催や報告書などの作成
- ④ 学習会、バングラ料理教室、チャリティコンサート、チャリティバザーの開催
- ⑤ 出張講師や各種イベントでのブース出展などにより、活動紹介などを行う

皆様方のご理解とご協力、いつもありがとうございます。

20周年＝新しい年も、どうぞよろしく。

今年も早くも12月を迎えました。

バングラデシュでは、暫定政権の元、厳しい規制がしかれ、カラムディ村母子保健センターにもその余波が押し寄せてきています。インフレによるガソリン代はじめ、物価の値上がりは、村人の生活にも影響を及ぼしているようです。年末の総選挙が無事に行われ、新しい政権のもとでバングラの人々の暮らしが安定することを願わずにはいられません。

手をつなぐ会の今年も、「福岡市市民国際貢献賞」受賞に始まりました。20周年の幕開けにふさわしい受賞でした。現地訪問は、若者たちの参加で、村人や子どもたちと温かな交流ができました。同時に、事前研修のあり方など、課題も残しました。

現地訪問の時に会った、フロリダ・パルビーンさんが、「第19回福岡アジア文化賞」を受賞したのもうれしい知らせです。ベンガル地方の伝統的な宗教歌謡バウル・ソングを歌うフロリダさんの歌声に勇気づけられました。

国内では、チャリティコンサート、バザー、現地訪問報告会、それにシャプラニールの全国キャラバンに協力し、現地NGOの話も聞く機会もありました。私たちの活動やバングラの様子を知ってもらうために、学校や地域での講演会なども開催、NHK「ラジオ深夜便」にも二ノ坂が出演し、会のこと、バングラのことなどじっくりと話す機会をいただきました。

20年の活動の歴史は、海外でも、国内でも様々な活動の広がりを見せてきました。その分、私たちの責任も重くなるように感じます。新しい年も、バングラデシュの人々に思いを馳せながら、共に手を携えて、という視点を忘れることなく、協力・交流活動を進めていきたいと思えます。

引き続き、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

(二ノ坂 保喜)



ミロン116号目次	
あいさつと目次	1
カラムディ村便り～現地報告	2～3
活動報告・①（現地訪問報告会の報告・チャリティバザー報告）	4
活動報告・②（講演会およびラジオ出演報告）	5～6
コラム	7
入会のご案内	8
会計報告／活動予定	9
お知らせ：料理教室開催／スタディツアー参加者募集	裏表紙

～カラムディ村便り～

ラフマン・モクレスール

●バングラデシュは今

ションダニや村の現状を書く前にバングラデシュの政治状況について少し触れたいと思います。

今月29日に総選挙が行われます。この選挙は実は2年前に行うはずでした。

バングラデシュで総選挙を実施する際には、その前に現職の閣僚全てが総辞職をし、中立立場にあると思われる裁判官に政権をわたし、暫定政権あるいは選挙管理政権が誕生します。暫定政権は3ヶ月以内に選挙を行い、過半数議席を獲得した党に政権を譲るのです。

2年前、この暫定政権の発足にあたり、与党と野党の対立が激しくなり、結局暫定政権の発足すら出来ませんでした。大統領は軍の協力を得てバングラデシュ中央銀行の前総裁を代表とし、暫定政権を発足しました。彼らは様々な改革を試みましたが、失敗に終わったような気がします。

現在、2大政党内の改革が必要だと思っている市民は少なくありません。両方の党首は20年以上にわたり党首を務め、幹部も同じです。また党も政府も、親から子へ、また子から孫へと世襲制のようになっています。軍の支援を得てできた政権は、腐敗や汚職にかなりメスを入れました、問題もたくさん起きています。暫定政権の最大の任務はもうすぐ終わろうとしています。

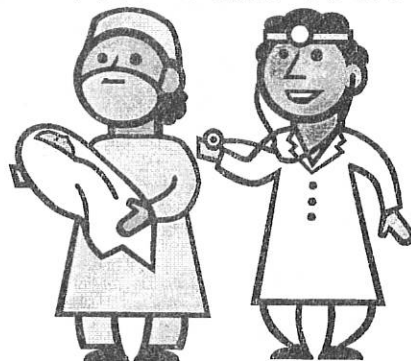
今回の選挙を監視するために国際機関や先進国からも監視員が続々とバングラデシュに入っています。先週はアメリカ大統領候補だったマッケイン氏と2人の上院議員はバングラデシュを訪問し、公正な選挙の実施を要請しました。各国はこの選挙を注意深く見えています。インドのムンバイで起きたテロ事件後、さらにその関心が高くなっています。日本から私達も支援するつもりです。

●ションダニの現状

昨年9月から今年の1月半ばまでションダニ病院は無医師でした。一生懸命に努力した結果、チョヨンという1人若い(卒業してから2年)医師がやっと来てくれました。私達は8月の現地訪問の時にその医師と会ってきました。しかし彼は来年1月にションダニを辞め、近くの街クシュティアに移るようです。ションダニは彼の退職願を受け、新しい医師を探していますが、田舎に勤める医師はなかなかいないのが現状です。来てくれても高額な給料を要求され、来ても長く勤務したがりません。本人は田舎が好きであっても家族もそうとは限りません。現実問題、子どもの教育や生活の利便性などが一番の障害になっています。

医師のチョヨン氏が退職すると、ションダニはまた無医師の病院になってしまいます。半年以上かけて、様々な対策をとって病院に対する村人の信頼を回復し、医療活動もある程度までに活発になりました。医師がいなくなることは、病院にとって本当に大きな打撃です。田舎の貧しい患者や妊婦のことを思うと、本当に胸が痛くなります。社会的責任を痛感します。

また、医師がいなければ病院からの収入も大幅に減ります。医師の給料は要らなくても、他のスタッフには給料を払わなければなりません。ションダニにとってはダブルパンチです。早く医師が見つかり、病院がもとどおり医療活動できることを期待します。



今回、ソーシャルワーカーが送ってきたいくつかのエピソードを紹介します。これらの事例はションダニの週末反省会で取り上げ、ケーススタディとしてスタッフみんなで情報を共有し、防止対策を考えているとのこと。

【ケース1】 ナズマ・カトウン(17歳/女性)

お父さんは裸足の医者で、薬局も経営している。また自宅出産の立会いもする。これらの収入で生計を立てている。

ナズマは妊娠確認後、ションダニのサテライト・クリニックで検診を受けた。病院で胎児の状態を確認することをアドバイスしたが、彼女のお父さんはションダニではなく、ガンニの私立病院に連れて行き、エコーを撮り、胎児がノーマルであることが分かった。

9月20日に陣痛が始まり、近くに住んでいるお父さんの看護助手(無教育)に頼んで来てもらった。しかし時間の経過につれ、ナズマの状態は悪化。結局21日にガンニの同じ病院に搬送。エコーを撮ったが、赤ちゃんは既に死亡。お父さんは今、とても後悔している。(Abeda Sultana Shyuli)

【ケース2】 セリナ(30歳ぐらい/女性)

2回目の妊娠。カラムディ村から約10キロ離れたところに実家がある。とても貧しく、経済的な理由で検診に来ない。しかし体調は非常に悪く、ソーシャルワーカー達は最悪の状態が待っているのではないかと彼女をとっても心配していた。

彼女達の強い勧めでセリナはサテライト・クリニックで検診を受け、その後ションダニでエコーを受け、必要な栄養剤や薬をもらった。ションダニはこれらの費用をプアーファンドから支給した。彼女の体調や胎児の状態は順調。出産は間近。(Abeda Sultana Shyuli)

【ケース3】 ショヘラ・カトウン(25歳/女性)

サテライト・クリニックで検診を受け、エコーで胎児の状態を確認するようにアドバイス。夫は無関心で、さらに肉体的・精神的な苦痛を彼女に与えていた。

9月14日彼女の陣痛が始まった。近くにションダニのサテライト・クリニック地域担当のスタッフがおおり、そのことを知ったスタッフがションダニの病院に電話連絡。救急車で運んだが、死産となった。このように多くの女性が自分の命や最愛の胎児の命をなくしている。(Abeda Sultana Shyuli)

【ケース4】 レザウル・ホック(40歳ぐらい/男性)

2006年6月にガン発覚。クシュティア病院で手術を受けたが、治らず、ますますひどくなった。今年8月24日にションダニに入院、9月3日退院。ションダニ病院では3袋の輸血を実施。それでも痛みはひどくなり、耐えられない状態。9月5日朝、持っていた全部の薬を飲んだ。その結果体調は急変。ションダニにつれてきたが、命は助からなかった。彼は薬だけではなく、農薬も飲んで自殺を図った。(Shumaya Khatun)

【ケース5】 シャハナジュ(30歳ぐらい/女性)

9月25日午後5時半ころ服毒したという連絡が入った。病院では看護師や医師がすぐに対応できるよう準備して待機。患者が到着後すぐに必要な装置をとったが、状態はますます悪くなっていった。家族と話し合った結果、患者をガンニ病院へ搬送。しかし、彼女は途中で亡くなった。ションダニが活動を開始して+数年たっている。しかしこのような死に方はまだまだ続いている。私達には課題がたくさんある。(Monota Shorkar)

活動報告・① つなぐ会のつながる国内活動

2008 秋のチャリティーバザー盛況に終わる

今年も秋のチャリティーバザーが10月26日に行われました。お天気が心配されましたが、案ずるより・・・無事開催できました。朝から準備におおわらわ。開始前からお客さんがつめかけて開始時間を予定より少し早めでの開催となりました。

毎回、人気のかしわご飯やお野菜とお漬物、パンケーキなどは今回も売れ筋で、「私もほしーっ」と思ってる間に売り切れてしまいました。

お客様も常連さんが増えてきて、嬉しいことです。値段交渉もお上手になり（笑）売り手である私も粘りつつ・・・何度かのやりとりの中でお買い上げとなります。こういう会話も買う方の楽しみのひとつかもしれません。バザー品を提供してくださった方も、求めている方が喜んで使ってくださることが一番嬉しいことでしょうし、まさに「リサイクル&エコ」ではないかと思えます。

今回も、参加してくださったお客様も多く、とても賑やかなバザーとなったのではないかとおもいました。沢山のバザー品、人気の食材類やパンケーキ等提供いただいたり、準備や運搬、販売などと、いろいろな形で協力してくださった多くの会員の方たちに感謝いたしております。20周年を迎えた会として今後もますます充実させた活動をしていかなければならないと思っております。これからもご協力をよろしくおねがいたします。（杉園）



「現地訪問報告会」が開催されました！

2008年度の現地訪問報告会が10月5日西新の百道パレスで行われました。

今回の報告会には、現地訪問した6名の中から、二ノ坂先生、ラフマンさん、吉田茜さんそれに芝生嘉恵さんが参加されました。

二ノ坂先生とラフマンさんは毎度おなじみの顔ですが、毎回参加されて現地の人たちと真剣に向き合って一生懸命に Bangladesh のことを考えておられるんだなあという思いがしました。そしてハイライトは初参加の二人、吉田さんと芝生さんの現地訪問の報告。イスラム大学での体験を印象的に語っていただきました。そして Bangladesh に行ったことが今後どのような形で自分の人生に関わってくるのかとても真剣に自分を見つめていることがよく伝わってきました。（八尋）



活動報告・② 講演会およびラジオ出演報告

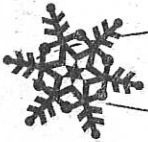


福岡女学園天神サテライトにて特別講演会開催！

10月25日に 福岡女学院天神サテライトにて特別公開講演会がありました。二ノ坂代表が「Bangladeshと手をつなぐ会の活動をとおして学んだこと」と題して講演しました。

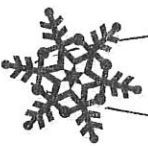
私はパネルの展示や民芸品の販売に行っていました。バザーの前日だったため慌しく出かけると、すでに会場には多くの方たちが集まっておられました。私は講演の間に、パネルや民芸品を並べておりましたが、そこから皆さんがとても興味をもってお話に聞き入っておられた様子を感じました。質問も活発に出ていたようでした。講演終了後もパネルや民芸品にも関心を持ってくださり、熱心に見ておられました。スタディツアーやバザーへの参加希望者もいらっしや、とても有意義な講演会であったと思えました。また、カンパもいただきました。ありがとうございます。

このような機会を通じ、いろいろな方たちに、会の活動を少しでも知っていただく必要が大切だと感じたひとときでした。講演会に参加されたみなさんと福岡女学院の方々には深く感謝いたします。(杉園)



NHKラジオ「ラジオ深夜便」に出演！

10月24日(金)NHKラジオ深夜便に、二ノ坂が出演しました。プロ野球中継がのび、前半の部分がかなり削られたのが残念でしたが、合計1時間近くの時間をいただき、Bangladeshのこと、人々の暮らしのこと、手をつなぐ会の活動のことや、今後の課題など、じっくりと語ることができました。

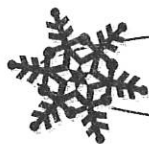


CESA (子どもの性と命の教育コミッティ) で講演

12月3日(水)には、CESA (子どもの性と命の教育コミッティ) の、秋の学習会で「いのちと向き合う～Bangladeshと手をつなぐ会20年の活動で学んだこと」というテーマで二ノ坂が講演を行いました。

CESAは、日本および海外(主としてインド・ムンバイ)で、子どもの性と命を守ることをテーマに活動している団体です。芳賀美子さんがリーダーを務めるこの会は、北九州を中心に活動しており、FUNN (NGO福岡ネットワーク) のメンバーでもあります。活動分野の異なる会との協力や学び合いは、私たちの会の活動にとっても参考になります。

この日は、二ノ坂の講演の他に、北九州市立大学の学生の報告「ディベイトで国際交流」もあり、アメリカでのディベイト体験の興味深い報告がありました。この日の参加者は約40人。芳賀さんを中心とした家庭的なつながりの感じられる会でした。これからもお互いに学びあっていきたいと思っています。

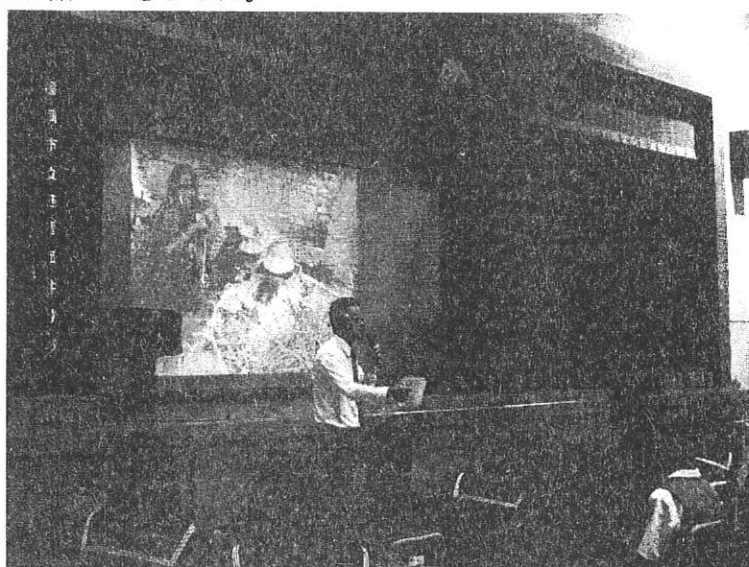


10月～12月、3つの中学校での講演を行いました。

10月23日(木)	福岡市立西福岡中学校	【全校生徒 400人】
11月6日(木)	福岡市立壱岐中学校	【総合学習 50人】
12月4日(木)	福岡市城南中学校	【3年生 250人】

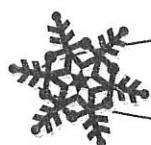
10月から12月の間に市内の3つの中学校で Bangladesh での活動に関する講演を行いました。いずれの講演も「Bangladesh で考えたこと～貧しさと豊かさの意味～」という演題で私(矢野)が初めて Bangladesh を訪れる前の Bangladesh に纏わるイメージと長期滞在を終えてから感じたこととのギャップを中心にスライドを交えてお話してきました。

福岡市立西福岡中学校では昨年度受賞した福岡市市民国際貢献賞の地域還元としての講演でしたが、当日はNHKのテレビクルーの取材もあり、全校生徒が体育館に集まり熱心に聴いてくれる姿が印象的でした。また質問も積極的に出てきて生徒たちの関心の深さも垣間見ることができました。



福岡市立壱岐中学校はNGO福岡ネットワークからの依頼で他5つの加盟団体と一緒に総合学習の分科会の Bangladesh を担当させていただきました。事前に生徒たちはしっかり学習していて Bangladesh の統計などは私のほうが教えられることさえありました。

福岡市立城南中学校での講演は3年生を対象に行われ、受験生である生徒たちの進路を考える一助となるように「世界で活躍するひとになってほしい」というメッセージを込めて話をさせていただきました。(矢野)



シャプラニール全国キャラバンを受け入れました

12月10日(水)、Bangladesh と手をつなぐ会が主催となり、東京の老舗NGO「シャプラニール=市民の海外協力の会」の全国キャラバンの受け入れを「あいれふ」にて行いました。シャプラニールの支援する現地NGOからスタッフのシヨンジョイさんをお迎えして、「Bangladesh の農村の変化と家族の暮らし」について講演していただきました。当日は会員を含む24名の参加がありました。15年前と現在の村の様子や活動に携わる人々の暮らしの変化について「生きた情報」をもとに Bangladesh の「最近」について理解を深めることができました。

また福岡の Bangladesh に関わる他団体との共催で行われた今回のイベントは各NGOの枠組みを越えて、それぞれの立場から他活動を検討したり、取り組みを比較したりできる有意義な時間になりました。(矢野)

現地を伝えるということ

理事 矢野 孝明

10月から12月にかけて立て続けに3つの中学校で講演する機会がありました。どの学校でも生徒たちの事前学習がしっかり行われていてバングラデシュのことをよく理解していました。さらに講演で私がスライドを使って説明しているときの生徒たちの表情からは、とても生き生きしているのが伝わってきます。私もついつい話しに熱が入り、お決まりのように時間オーバーをしてしまうのでした。

その講演の中で私は必ず最初に「バングラデシュと初めて聞いて思い浮かべるイメージとはどのようなものでしたか」という質問を投げかけます。返ってくる答えは「貧しい、貧困、サイクロン、洪水、飢餓」など、そのほとんどはネガティブなものばかりです。事実、日本のメディアで発信されるバングラデシュ情報は政治事件や災害、救援支援や援助活動などばかりですから、そうしたイメージが先行してしまうことは無理ありません。それは何も中学生に限られるものではなく、大人の世代に問いかけても「よど号ハイジャック事件、バングラデシュ独立戦争、ジョンレノンの救済イベント」などが加わり、やはりどこか後ろ向きな回答がかえってきます。

私はどの講演においても、まずこのネガティブなイメージの是正をひとつのポイントにしています。

「バングラデシュの失業率は70%とも言われていますが、逆に考えれば国民の7割が働いていないのに成り立つ国はある意味豊かであると思いませんか」

「イスラム教はテロや怖いというイメージがありますが、全世界の5人に1人がイスラム教を信仰しています。では全世界の5人に1人が怖い人たちですか」

「これは洪水のときの人々の写真です。彼らの笑顔に洪水への悲壮感は感じられますか」

多少極端な言い回しではありますが、話しを進める中で「そういった見方もある」「何をもって豊かというのだろうか」というグローバルな視点を持ってもらえるよう、さらにはステレオタイプやバイアスを払拭してもらえるように努めています。それと同時に私が現地で遭遇した負のイメージも必ず紹介します。これらもまた紛れもないバングラデシュの現実なのです。

「10人の子どもが生まれてもそのうちの1人は5歳まで生きることができない統計」

「郵便局でこの住所を書いてくれと私にお願いしてきた文盲の老婆の話」

「家庭訪問をすると学校に行きたいと泣く子どもの存在」

私たちの持つ負のイメージだけがバングラデシュではなく、「現地では私たちでは持ち得ない豊かさや彼らの感性があるという事実」とその反面、「やはりまだまだ改善が必要な部分も存在するという事実」を抱き合わせることで、初めて現実と対等に向き合え、我々の取り組みを紹介することができるのではないかと私自身は考えています。現地のことを伝えるのはとても難しいことであると講演のたびに痛感させられます。しかし、この命題に取り組むことこそが、真の国際協力なのだとして自身に言い聞かせながら、今日も講演に出向かせていただいています。

**あなたも参加してみませんか？
 Bangladesh と手をつなぐ会
 入会のご案内**

「Bangladesh と手をつなぐ会」では Bangladesh ・カラムディ村での〈教育〉と、
〈医療〉への協力活動を支えていくために、会員を募集しています。

正会員＝会の運営に積極的にかかわり、手伝いたい方。

総会での議決権を有します。

会費は 月額500円（年額6000円）

賛助会員＝会の趣旨に賛同し、協力する個人または団体の方。

会費は 一口月額1000円（年額12000円）

何口でも結構です。

この機会にあなたも参加してみませんか？

以下の用紙にご記入の上、郵送またはファックスでお送りください。

Bangladesh と手をつなぐ会 代表 ニノ坂 保喜

福岡市早良区西新5-4-20

TEL&FAX 092-844-1369

郵便振替 01720-2-10442

加入者名 Bangladesh と手をつなぐ会

**Bangladesh と手をつなぐ会
 入会申込書**

.....年.....月.....日

氏名 _____ (男・女)

生年月日 明・大・昭 _____ 年 _____ 月 _____ 日 (_____ 才)

職業 _____

住所 _____ 〒 _____

TEL _____ e-mail _____

● (正会員 賛助会員) として入会を申し込みます。

● 会費 _____ 年 _____ 月分から _____ 年 _____ 月分まで

_____ 円を (直接 郵便振替で) 支払います。

<会計報告>

※募金協力 (敬称略)

富田桂子 オヤマダヒロサダ 山崎博敏 小金丸貫次 小金丸良 古賀節子 長濱洸 杉園順代
中村和子 野呂やす子 相賀節子 谷口勝美 能木啓次 小谷健太郎 江頭毅 越智吉郎 垣田節子
小谷佳子 松尾清美 にのさかクリニック募金箱 小崎隆子

※旅費のカンパ (敬称略)

西田和子 山下久代 菅美枝子 和田タマ 江頭毅

※新会員紹介 (敬称略)

吉田茜 芝生嘉恵

※未使用切手の提供 (敬称略)

篠崎純子



※ 10月26日のチャリティバザーには沢山の方々から提供品をいただきました。ありがとうございます。又、雨の中会場まで足を運んでくださった方々、重ねてお礼申し上げます。

<11月25日現在>

ご協力ありがとうございます m(_)_m

これからの行事予定

月 日	時 間	内 容	場 所
2008 12月29日 (月)	11:00~14:00	2008年仕事納め	西新事務所
2009年 1月15日 (木)	19:00~22:00	2009年初理事会	西新事務所
1月29日 (木)	19:00~22:00	理事会	西新事務所
2月1日 (日)	10:00~15:00	バンクラ料理教室	福岡市立婦人会館 (あいれふ)
2月第一週	19:00~20:30	スタディツアー事前研修	福岡市青年センター5F (あすみん)
2月第二週	19:00~20:30	スタディツアー事前研修	福岡市青年センター5F (あすみん)
2月12日 (木)	19:00~22:00	理事会	西新事務所
2月第三週	19:00~22:00	スタディツアー事前研修	福岡市青年センター5F (あすみん)
2月第四週	19:00~22:00	スタディツアー事前研修	福岡市青年センター5F (あすみん)
2月26日 (木)	19:00~22:00	理事会	西新事務所
3月5日 (木)		スタディツアー出発	福岡国際空港
3月14日 (土)		スタディツアー帰着	福岡国際空港
3月12日 (木)	19:00~22:00	理事会	西新事務所
3月26日 (木)	19:00~22:00	理事会	西新事務所
3月29日 (日)	12:30~15:00	カリナコンサート&チャリティバザー	にのさかクリニック駐車場

※ 行事予定が変更になることもありますので、事前にご連絡下さい。

- 未使用の切手やはがき、書き損じのはがきを集めています。事務所宛送っていただけるか、イベントに参加される折持ってきていただくと助かります。
- 会報の印刷や発送のお手伝いを募集しています。

※ にのさかクリニック ☎092-872-1136・事務所 FAX092-844-1369

百聞は一見にしかず！ バングラデシュ体験はいかが？

✿✿ 食べてみよう！ バングラ料理教室

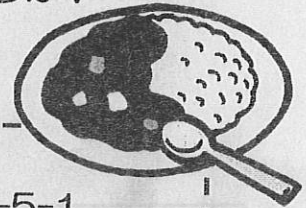
今年もやります、バングラ料理教室。

実際に作って食べて、ちゃんと覚えて帰ったら…

家でも出来ちゃうバングラ体験。今年のメニューは何でしょうか？

楽しみにしている常連さんも多いこの企画。

お申込みはお早めに♪



日時：2009年2月1日（日） 10:00～15:00

場所：婦人会館 8F 調理室（あいれふ）福岡市中央区舞鶴 2-5-1

参加費：1000円

定員：40名

当日準備するもの：エプロン

申込み方法：電話にてご連絡ください

✿✿ 行ってみよう！ スタニッツアー参加者募集

バングラデシュのカラムディ村を訪問するツアーです。

行ってみてこそ分かることがたくさんあります。病院や学校を訪問したり、

現地の家庭にお呼ばれしたり、バングラデシュならではのバスやマーケット

など、行かなきゃ体験できないことが山盛りです♪

期間：2009年3月5日（木）～14日（土）

参加費：19万円（航空運賃、現地滞在費／※ビザ代、保険料別）

定員：8名（定員になり次第、締め切ります）

申込み方法：電話にてご連絡ください。

※訪問にあたっては、数回の事前学習会を行います。

※スケジュール等詳細は電話にてお問い合わせください。

主催&問合せ先：特活）バングラデシュと手をつなぐ会

（TEL：092-872-1136 にのさかクリニック）